

黒崎羊二氏 連続講座 「住まいから考えるまちづくり」

—住民目線のコミュニティ再生—

第10回（7月21日開催）「合意形成を阻む状況」

第10回講座(7/21)では、多くの「まちづくりの目標」そのものが、生活から離れた目標で現実性がなく、市民の共感を得てない現実を浮き彫りにするところからはじまりました。日本最大の政令指定都市である横浜市都市計画マスタープランを事例として、都市づくりの目標がどのように掲げられているかを見てみると...

「市民生活の利便と安全安心を支えるとともに、国際競争力の強化を図るための基盤づくり」、が展望として掲げられています。市民生活と国際競争力、この2つがなぜ並列されているのか、大きな疑問です。

いくつかある都市づくりの目標にも、「集約型都市構造への転換、鉄道駅を中心としたコンパクトな市街地の形成」、「首都圏全体の発展を牽引、国際競争力を高めるための基盤づくり」など、決定的に生活問題が抜けています。住宅マスタープランで住まいや生活の視点が補完されているかといえば、現実には応えていないものがほとんどです。

ホワイエ読者の皆さんも、ぜひお住まいの自治体の都市計画マスタープランを見開いてみてください。

参加者 意見

建築とまちづくりに関わる人の素質とは—寄り添い、共感して、本音を聞き出す 姿勢を一貫すること。技術・知識より大切なものとは？

- 人間社会で育ててきた知恵がいま伝わっていない。そういう中で親たちが子育てしていく。企業の価値観で育てられてしまわないだろうか。
- 横浜のまちは、外から来る人にはそこそこ良いとを感じるが、本質的な問題が今日よく分かった。
→ (黒崎) 私の住む旭区は、横浜市の中でも疎外されてきた地域で、急激な高齢化が進んでいる。高齢者が高齢認知症を介護する世帯、ゴミ出しもできなくなる身体的衰えを地域でどう支えていくか。そうした生活者の課題には一切答えずに、横浜市は、大規模公共開発へ進み、問題のすり替えをし続けている。
- 住宅設計において、必ず一人一人の本音の要求が出ないと合意はウソになる。合意の出る雰囲気をつくり、家族間が平等であることが大事。
→ (黒崎) 本音を聞き出す姿勢を一貫すること。寄り添い、共感して、さらに聞き出していく。建築とまちづくりに関わる人にはそういう素養が必要。これは技術・知識の問題というより「マインド」「視点」～専門家としての資質の問題。
- 仕事でクレーム対応をすることがあるが、時間をかけて対応することで理解してもらえることを実感している。
→ (黒崎) 合意を阻む視点は我々の中にもある。逃げずに真正面から対応。合意は一人ずつ、それぞれ等しい満足感が得られるように。時間がかかると思えるが、もっとも早い手段。

第三期（第10回～第12回講座）ご案内 ★夏休みでも第三火曜です★

第11回 8月18日(火) 19:00～21:00
まちづくり合意の原則

第12回 9月15日(火) 19:00～21:00
まちづくりの展望～まとめ ★最終回

会場：まちづくり研究所

(渋谷区恵比寿 1-13-6
第2伊藤ビル 503)

参加費：1200円(600円) / 1講座

連絡先 tel：03-5423-3470 (川田・藤巻)